

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1272401173		
法人名	株式会社デシジョンケア		
事業所名	グループホームぬくもりの家君塚		
所在地	千葉県市原市君塚3丁目22番地1号 (電話) 0436-23-6826		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	11月1日

【情報提供票より】(19年8月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11(兼務2)人, 非常勤1人, 常勤換算12.5,	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨または鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	食・水光熱60,000 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500円			

### (4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鎗田病院 五井病院 高橋歯科医院
---------	------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然の多い住宅街の一角に位置し、静かな環境の中にある。1階にデイサービスと法人の事務所、2階がグループホームになっている。グループホームに上がる1階の玄関周りのプランターには花が咲き、ベンチも置かれていて、優しい雰囲気を感じる。入口を入ると目に付くところにホームの理念を額に入れ掲示している。比較的介護度が軽度の入居者が多く、出来ない部分のみ支援するケアが行われている。また、職員の育成にも力を入れており、レベルに合った研修が受けられる体制になっていて、職員も積極的に受講している。ホームは子供110番の家に指定されており、子供との関わりも含め、今後更に地域に開かれたホームを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点を記録に残し、職員会議で話し合いが行われた。理念に関しては、見やすい文字で玄関の目につき易い所に掲示した。理念の啓発、広報については今後、ホーム独自の便りの発行を検討中である。ユニット入り口の施錠に関しては開錠の方向で試行している。玄関の臭いについては清浄対応し、時計も設置した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価の話し合いを行い、管理者が代表して記入をした。前回の外部評価でたくさんのご意見を学ぶ事ができ、職員のサービスの質に対する意識が高まった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は町会長、地域の役員、家族代表、施設代表、職員代表の参加により6/10に一回目が開かれた。内容は前回の評価結果、今後の取り組み状況等について話し合われた。次回開催は11/1の予定である。その時は今回欠席の市の担当者、民生委員への参加呼びかけを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置しているとともに、面会時にも職員が家族と話しをしている。意見・要望は職員会議等で話し合いを行っている。また職員の入替わりが少々多いため、法人内の異動は最小限に抑えるよう、法人に働きかけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に近隣の人達への挨拶を心掛け、町内会のイベントへの参加、近隣の小学生の吹奏楽部が演奏に訪れてくれる等、地域との交流に努めている。しかし、グループホームの行事に地域の人達を招きかけはされていない。また、1階のデイサービスやユニット間の交流も薄い。まずは同じ建物内にあるデイサービスとの交流をきっかけとし、地域連携を深めていくことが期待される。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームでは「心にやすらぎ、「家族に包まれたぬくもり」の理念を作り上げており、訪問者の目にも止まるよう、玄関に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初は朝のミーティング時に唱和していたが、入居者の状態変化に伴い時間的に余裕がなくなり、現在は行っていない。理念の実践では、できることは極力自分で行ってもらうことを心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、お祭りや盆踊りなどに参加している。自治会の依頼で子供110番の家になっており、散歩の際は職員が腕章をつけて出かける。近隣の小学校教員の新任研修などにも協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解しており、ミーティング時に外部評価の結果をもとに、改善に向けての取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6/10に第1回の運営推進会議が地域、家族、施設の代表者の参加のもと開催された。その際に評価に対する報告と改善に向けた話し合いを行い、同時に家族会も開催した。次回は11/11の予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	第1回の運営推進会議は日曜日と言うこともあり、市の担当者、民生委員の参加は得られなかった。報告書は送付したが、それについてのコメントは届いていない。		市の担当者には運営推進会議へ出席して頂くよう、今後も働きかけが望まれる。また、市町村事業の受入れ等の呼びかけも期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月14日に居室担当者が入居者の状況を家族に手紙で送付している。また、同時に法人の事務が一括して行っている出納表も同封している。しかしながら職員の異動報告はされていない。	○	職員の入・退職は、入居者のみならず家族にとっても気になる問題である。頻繁の異動であっても、その都度報告し、安心感を得ることが必要と思われる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をしている。また面会の際に家族が職員に気づきを話していくので、全職員で話し合いを行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や離職が少なからずあり、新入職員には、ベテラン職員がフォローし、入居者への不安を最小限に抑えるように配慮している。	○	ホーム管理者から法人代表に、異動を最小限に抑えるよう要請しているとのことなので、今後は職員と入居者が、より深い馴染みの関係になっていくことが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は法人の負担により出勤扱いで、レベルに応じた研修を受講している。ほかに年1回の内部研修では消防署の協力を得て、救命救急訓練も行われた。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入はしている。しかしながら一部の職員の他事業所見学に留まっており、ホーム全体としての交流は行われていない。	○	他事業所と交流する機会を積極的に持つことが必要と思われる。また、職員同士が仕事の悩みを共有し、問題解決のための勉強会を開催するなどして、サービスの質の向上に繋げることが促される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学は随時受け付けているが、体験入所は部屋の空き状況にもよるため、出来ない時もある。新しい入居者にはできる限り多くの職員が関わるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩でもある入居者から職員は、茶碗の置き方、運針、礼儀作法、梅干しの漬け方を教わる等、学ぶことが多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>申込時に、入居者本人や家族から希望・意向を聞き、ケアプランに落とし込んでいる。入居後も居室担当者が思いをくみ取るよう努めている。日々の細かな情報を全職員が共有する方法については、検討を続けているところである。</p>		<p>入居者個別の日々の情報を全職員が共有するための方法を模索しているところなので、引き続き体制作りが期待される。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントシート作成、入居者個別の記録充実、送りでの情報伝達などはしっかりと行われているが、家族への聞き取りは入居申込時に留まっている。</p>		<p>介護計画の見直しの際に、家族との話し合いを持つことが必要と思われる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況に変化があった際は、すぐに担当職員が計画作成担当者に伝え、計画の見直しがなされている。しかしながら、特に状態変化がない場合は評価・見直しの記録等が残されていない。</p>		<p>入居者の状態に特に変化がなくても、介護計画は定期的に評価・見直しをすることが促される。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に沿った病院への送迎を行っている。しかしながら、その他の面についてはまだ模索の途上である。		同法人のデイサービスとの連携や、家族、地域のニーズに合わせた柔軟な支援などを検討していくことが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2ヶ月に一度、訪問診療を受けているが、認知症の専門医ではなく、急な体調不良などには柔軟に対応できない場合がある。		高齢者の健康に配慮し、必要時に適切な医療を受けられるような体制作りをすることが重要と思われる。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要になった場合の退居先等、家族の心配もあるため、家族会において、特養等の情報収集をしたり見学を重ねるよう呼びかけている。		医療行為が必要になった場合の退居の支援の仕方について、ホームでも話し合い、入居者・家族が安心して終末期を迎えられるよう方針作りをすることが必要と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の尊厳に配慮して言葉かけや対応をしている。ケアプラン等の記録物は事務所で保管し、入居者が他施設に移る際の情報提供には、本人・家族の了解を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好みやペースを見極めるようにして、入居者の意向を第一に考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスと共通の給食部門から、出来上がった料理が持ち込まれており、盛り付けのみグループホームで行っている。そのため入居者個々の好みの反映や調理の腕を振るうには至っていない。		デイサービスが休みの日曜に、ホームで手作りすることを検討しているとのことなので、実現が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前午後に限らずいつでも入浴が出来るよう柔軟に対応している。気が進まない入居者に対しては、入浴剤を変えたり清拭にしたりして工夫し、無理強いない支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の得意分野を把握しており、男性には庭仕事、花壇の手入れ、女性には縫い物、食器の後片付けなど、場面作りや言葉かけを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前や午後の散歩、外食、消耗品の買い物等、日常的に外出の機会を作り、身体機能の維持に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開放的な気分を提供するため、時折、日中にドアを開放しているが、施錠している時間の方が長い。		前回評価でも指摘されていることであり、入居者の行動制限にならないためにも、鍵をかけないケアを工夫することが求められる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の火災、地震を想定した訓練を年2回実施している。しかしながら、地域との協定作りには至っていない。		災害時には地域との協力体制も不可欠である。運営推進会議の場などで日ごろから話し合っておくことが大切と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスは法人の栄養士がチェックしている。摂取量や水分量は入居者個々に記録をつけている。疾患のある入居者の食事は個別対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には暖簾が数多くかけられており、家庭的な雰囲気作りに一役買っている。過度な音や光、臭いなどの問題はなく、安心してくつろげる空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は入居者の使い慣れたものが家族の協力で持ち込まれ、清掃も行き届いて、居心地良く感じられた。</p>		